

美味しい肉牛の
飼養経営を全国に発表



上野一弘さん
(城台)

7月19日、愛知県豊橋市で開催された第56回全国農業コンクール全国大会で優秀賞を受賞した上野一弘さんにお話を伺いました。

全国農業コンクールは、農業経営・生活面で、高い収益と快適な生活を実現し、地域に大きな影響を与えている農業者の実績を広く紹介・普及して、農業の発展と農村地域の活性化に役立てる目的で、全国から選出された二十代表による優れた実績の発表と、審査・表彰が行われる大会です。

現在上野さんは、約220頭の肉牛を飼養しています。上野さんが飼養している肉牛は、交雑種牛というもので、父親が和牛、母親が乳牛という種類です。以前は、乳雄肥育牛を生産していましたが、牛肉の輸入自由化に伴い、交雑種牛肉は乳雄肥育牛より高く取引されるため、交雑種牛の生産に切り替えたとのこと

今月の輝ける星

上野さんの牧場は、両親と奥さんの4人で経営をしています。経営のポイントをたずねると「和牛に引けをとらない肉質と、ホルスタインの肉量の両方を兼ね備えた、高品質な交雑種ブランド牛を生産すること。また、耕種・園芸農家等への良質堆肥の供給です。」と、飼養を無駄なく効率よく行うことが、必要であることを力説してくれました。

また、「牛も人間と一緒に、特に季節の変わり目には風邪も引きやすいので、非常に気を使います。子どもを育てるように、一年中気は抜けません。」と、交雑種牛の飼養に対する思いを話してくれました。

平成18年には、大阪食肉市場枝肉共励会で最優秀賞に輝き、和牛を超える高値で取引されたこともあるそうです。また、堆肥についても、平成17年度栃木県堆肥共励会に出品し、優秀賞を受賞しました。

今後の目標をたずねると、「飼養頭数300頭を目指すこと。そして、町内外の耕種・園芸農家に良質な堆肥の供給を行っていききたいです。また、地産地消による学校給食への協力をしていきたいです。」と経営に対する意気込みを語ってくれました。

かみのかわ 四季の野鳥 カワセミ (翡翠・川蟬)



クチバシが赤いメス



じっと獲物を持つ

田川のサイクリングロードを散歩していると、鮮やかなコバルト色の鳥が「チー」と鳴いて水面を一直線に向こう岸に飛んでいきました。“空飛ぶ宝石”、カワセミです。近年、下水道の普及などによって河川の水質が改善され、幻の鳥だったカワセミも町内の鬼怒川、田川、江川などのほか、「こんな所に？」と思うくらい小さな用水路などでも、しばしば目にするようになりました。

カワセミは、一年中見られる留鳥で大きさはスズメくらい、水中にダイブして魚を捕るため、頭とクチバシが大きく尾が小さい鳥で、他の野鳥と見まちがえることはありません。鮮やかな青緑色の背中にオレンジ色のおなか、背中の色は光線の具合で青や緑色に変化して見えます。ちなみに宝石のヒスイ(翡翠)はカワセミの羽色からつけられた名前です。羽色は雌雄ほとんど同じですが、メスは下側のクチバシが赤いことで見分けられます。

3月ごろから始まる繁殖期になると、オスがメスに魚をプレゼントする求愛給餌という行動が見られ、つがいになったカワセミは、水辺の崖に穴を掘って巣を作り4から7個の卵を産みます。オスとメスとが交代で卵を抱いて20日ほどで孵化し、その後、3週間ほどで巣立ちします。

カワセミの名前は、古名の“ソニ、ショビ”から変化したもので、昆虫のセミとは関係ないようです。